

## ■ 今月の特選句

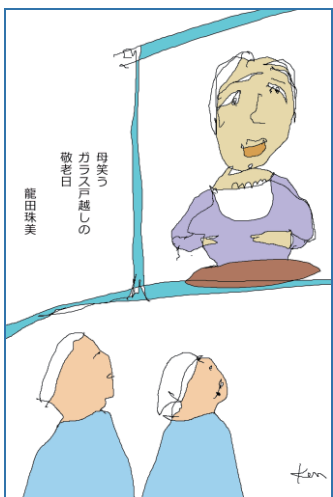
2020年11月



## 代議士の襟だけ飾る赤い羽根

高橋きのこ

赤い羽根を胸につけるのは国会議員だけになってしまった。テレビのアナウンサーもつけるが三日が限度。鶏たちも浮かばれぬ。



## 母笑うガラス戸越しの敬老日

龍田珠美

コロナの感染予防のため、病院や介護施設では家族であっても面会ができない。ガラス越しでも面会ができたのはよかった。



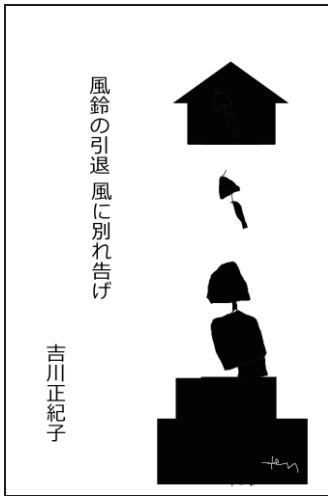
## 片恋の二人三脚運動会

白井道義

最後まで胸の内を明かすことなく運動会を迎えた。今日を最後に楽しかった練習ももうなくなる。道義君、できるだけゆっくり走りなさい。

■今月の特選句

2020年11月



風鈴の引退風に別れ告げ

吉川正紀子

ひと夏を一緒に過ごした風君に、風鈴は別れの挨拶をした。風はお疲れ様と声をかけ、風鈴はチリリンと応えた。小さな物語があるね。



そぞろ寒無頼追ひ遣るデジタル化

峰崎成規

菅首相がデジタル庁を設けるなど、時代は高齢者に酷な雲行きである。「不器用ですから」などとカッコつけてる場合じゃないのよ。



爽やかや口元にご飯つぶ付けて

藤森荘吉

可愛い風景だなあ。あれれ、ご老人かもしれぬ。いやいやイケメンか美女のことかも。いずれにしろ明るい声が聞こえてくるのがいいね。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

秋刀魚焼く焦げ目大事に裏返し ・・・高値がゆゑの特別待遇	工藤泰子
その尻は多産系なりハンモック ・・・網目豊かに広げてゐるね	小林英昭
向日葵の意地悪迷路に誘ひ込み ・・・迷ひ込むため行つたのだけど	壽命秀次
生身魂老いても子には従わず ・・・人生百年その心意気	青木輝子
のつけから出さるる大声どくだみ茶 ・・・騒音防止条例違反	吉原瑞雲
かあかあをガアガア口説く秋鳥 ・・・これはカラスのナンパの景色	岡田廣江
紙袋外せば息継ぐ葡萄かな ・・・葡萄にとって袋はマスクよ	井口夏子
古池を出たくてジャンプ秋蛙 ・・・松尾芭蕉のことなど知らず	稲葉純子
錆つきしクレーンのごと枯蟻螂 ・・・古びしものに生まれる値打ち	上山美穂
バドミントン孫と張り合ふ敬老日 ・・・孫に遊ばれてるとも知らず	石塚柚彩
薪割の呼吸にリズム冬隣 ・・・息の白きに冬のひそみて	遠藤真太郎
秋出水百年に一度が年一度 ・・・天才出現の頻度ならよし	伊藤浩睦
ウイंकも言葉のひとつ秋日傘 ・・・傘の人とは密なるを避け	田村米生

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

蜂あそぶ大輪菊でかくれんぼ	相原共良
諍へる後の夫婦や月昇る	相原共良
大粒の栗の穿られ栗の飯	相原共良
芸術祭ストレスになるピカソの絵	青木輝子
満月は羨ましいな瘦せられる	青木輝子
竜淵に潜んで未だ現はれず	赤瀬川至安
長き夜や半沢直樹など知らん	赤瀬川至安
命日と敬老の日を間違ふる	赤瀬川至安
君と食ふもろこし故郷(くに)じゃ「きみ」といふ	荒井 類
硯洗ふ子ら帰宅して手指(しゅし)洗ひ	荒井 類
一日の半分は昼秋彼岸	荒井 類
餅して何語飛び交ふ栗拾ひ	井口夏子
草原のすべてを包み銀河澄む	井口夏子
乙女心は○△□秋の雲	池田亮二
西瓜どろ平成つ子には荷が重し	池田亮二
孫の手紙に長生きしてねと敬老日	石塚柚彩
十月の祝日のないカレンダー	石塚柚彩
吊るし柿五百羅漢の顔と顔	泉 宗鶴
藪からし貧乏暇なし生い茂る	泉 宗鶴
金風や金一封の涙金	泉 宗鶴
換気して勘気蒙る冷房裡	伊藤浩睦
陰性かいや院政だ秋の風邪	伊藤浩睦
曼珠沙華死はいつの日も他人ごと	稲沢進一
あるときは泣いて笑つて唐辛子	稲沢進一
冬帽子遠くをみつめ躓いて	稲沢進一
腹の虫夜食夜食と急き立てる	稲葉純子
鶏の厄日となりぬ赤い羽根	稲葉純子
長き夜やネット注文目移りす	井野ひろみ
カタカナの病は加齢秋の暮れ	井野ひろみ
キノコサンドのキノコにゆるりと逃げる気か	上山美穂
イワシ雲食べたいものを食べなくちゃ	上山美穂
秋深し風のひやひや廊わたる	梅野光子
かけっこや張り切つてゐるフライング	梅野光子
伴の星従へ十五夜の散歩	梅野光子
唐黍や戦地の歴史バーボンに	遠藤真太郎
城のある公園肩に紅葉散る	遠藤真太郎
曼殊沙華ときをり茎は弧を描く	大林和代
初冠雪富士に威厳の戻りたる	大林和代
草丈のグラフ縮むか秋の蝶	大林和代

巢ごもりの俳句うかばず萩の花  
 川中島の吟詠天高きまで  
 咲く時季をよく知つてゐる彼岸花  
 穴まどひこの家の主に挨拶か  
 お揃ひの色柿の実と柿の葉は  
 永年のアベック見下ろす天の川  
 秋ナスや油吸いこみコロナ太り  
 揚げ芋や断捨離できぬ肉襦袢  
 波郷忌や石鎚産の黒茶飲む  
 厚化粧して十月の遍路旅  
 冬温しGoToで行く松山城  
 名水は元をたどれば積乱雲  
 電源をoffに落として帰り花  
 しみ取りの痕を隠してマスクかな  
 洋ナシもドナルドダックも円き尻  
 底紅の一日の深し戻れない  
 金木犀の光溢るるその日から  
 秋時雨京の地名も長々と  
 秋日浴び伸び縮みする虎の縞  
 富士山に投網うつたる鰯雲  
 月光にあがつてもらふ応接間  
 名月より満月赤し火星連れ  
 朝寒や布団いつしか引き被る  
 突っ掛けに芋虫這ひて雨上る  
 縞つ蚊の羽音の歓迎墓洗ふ  
 絵日記のヒロインに婆夏休み  
 それとなく人寄せつけず敬老日  
 抜きんでて風に煽らるる女郎花  
 濡羽の朝日を浴びる稲雀  
 秋麗ステイホームという隠居  
 老いてゆくに必要なのは野菜畑  
 今日いっしょに生きるアサガオ数える  
 脱皮くりかえすしわしわの私  
 駐在に尻尾つかまれ夜這星  
 一命を今日より解かれ捨案山子  
 旗本の菊人形も御落胤  
 ディベートの席のつまみに笑茸  
 県境の土手は赤道彼岸花

小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 加藤潤子  
 加藤潤子  
 加藤潤子  
 金城正則  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 鈴木洋子  
 鈴木洋子  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 高田敏男  
 高田敏男  
 高田敏男  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ

「二階」からの目薬利きし秋の乱

秋夕焼先に毫碌(もうろく)したが勝ち

困りせば下五はこれよ秋の暮

焼栗や井戸端会議のお裾分け

秋高し義足のキリン駆け出して

老いの身の忘れ癖出て虫の声

ひやとひの金の貸し借り虫の闇

曼珠沙華スタンダードの「赤と黒」

秋の選挙令和をちさんすまし顔

鍬胼胝(だこ)は一生(ひとよ)の誇り日焼婆

秋彼岸三婆駄弁る墓の中

赤色を追ひやる白の彼岸花

本日のメインディッシュや秋の茄子

己が身に秋の気合のどっこいしょ

星々が涙している流れ星

十五夜は月に帰ろう吾は姫

がぶりよつ少年相撲アキレス腱

蛤になる術修業する雀

秋刀魚買ふ銭も政府が出しなはれ

稚児の手に皺くちや女優秋気澄む

二百十日洗濯物は左寄り

値段知り評価の変はる新酒かな

貸した金踏み倒されて苧田風

不老長寿や枸杞の実の小さくも

柿食えば種が邪魔なり午後三時

赤い羽根人には見せずポケットに

散らぬぞと桜紅葉の艶が増し

焼米の香り残して煙り行く

追い掛けて追い掛けられてゆく野分

名月の裏はうさぎの休憩中

荒屋(あばらや)を好んで虫の集(すだ)くかな

進化せぬことが自慢か烏瓜

秋祭り今年はコロナと鉢合わせ

生ビールチェイサーにして月見酒

コロナ菌マスクをファッションに変へる

蓑虫や糸を操る不法ハッカー

畑の大根褒めて一本頂きぬ

路地裏に昭和の男秋の暮

ココア入牛乳菓子パン糸瓜の忌

里芋を煮つころがして憂さ晴らす

竹下和宏

竹下和宏

竹下和宏

龍田珠美

龍田珠美

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中早苗

田中早苗

田中早苗

田中晴美

田中晴美

田中晴美

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

田村米生

田村米生

月城花風

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

長井知則

長井知則

長井知則

西をさむ

西をさむ

西をさむ

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

コロナ禍や月にマスクの雲かかる  
 初もののサンマに七日延ぶ命  
 初もののまつたけ舌で遊ばせる  
 夏休ちやんとさぼつてちやんと寝た  
 秋嬉しがばり起きればすつきりと  
 GoToとコロナ疲れの秋の旅  
 筋肉痛老いの右足秋日和  
 旬の味苦み走った秋刀魚かな  
 敬老会行かぬ傘寿の心意気  
 老いの秋脳ミン鍛えて筋肉つけて  
 草楽団最後にチョンと鉦叩  
 眼より鼻寄せて松茸値踏みせり  
 一合のいつしか五合穴惑ひ  
 親展の小窓に我が名うそ寒し  
 柿を採るガードレールに足掛けて  
 濁酒呑むへーほーそーと言ふ妻と  
 なつかしや猿にも負けぬ柿の味  
 竜胆のやうな肝玉我も欲し  
 吾子の夢軽いが固い松ぼくり  
 蟻螂のロボットめきし動作かな  
 現るる怪物コロナ厄日とす  
 居待月東京五輪宙にあり  
 帽子だけ残して案山子の焼かれをり  
 良き出来を前に出したる菊の鉢  
 秋晴や陶の狸の阿弥陀笠  
 木の実独楽山へ傾き果てにけり  
 ひらひらりひらがな崩し萩の散る  
 大花野免許返納考へる  
 香ばしきせんべいのやう今日の月  
 一段強し朝寒の母の声  
 柿食つて子規に近づく俳句力  
 鹿たちは角を切られて角を出す  
 ままごとや蚊帳吊草の蚊帳吊るし  
 死人花幽霊花も季語のうち  
 今晚の献立決めた鰯雲  
 太刀魚がその気になれば龍となる  
 栗飯の手間は笑顔で報われる  
 邪鬼のごと踏みにじられて栗の毬  
 炎吐く怪獣に菊師水をかけ  
 豊の秋虫菌のうづく小町顔

廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 向田将央  
 向田将央  
 向田将央  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村山好昭  
 村山好昭  
 村山好昭  
 百千草  
 百千草  
 百千草  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生

嬉しかりけり栗ご飯頬張れば

我が花壇つがいの蜻蛉の睦まじき

花トマトいきなり巨大にするルーペ

うんうんと新酒喜ぶ喉仏

カナダ産なれど松茸土瓶蒸

貴婦人のやうな紫とりかふと

ゴートウの誘い文句に秋列車

秋遍路久万の岩松香りたる

生なつめ噛ると意外リングあじ

赤とんぼニアミス挑発飛行隊

庭の虫駄賃に雇ふ青がえる

バツタ飛ぶ景気動向露知らず

ベンチより天守見上げる秋高し

満月を裸眼で見ればなほ大き

運動会ピストル音に背な押され

この下は川とも知らず歩く秋

一つ葉にあとの空蟬数知れず

どこからかカレーの匂ふ秋日和

天高し不要不急の外出日

焙煎の風にうなずくさるすべり

マスクの目集めてひるむ嚏かな

夕陽むさぼり柿の実色づけり

井戸端の政治談議は空花火

セザンヌやダリまた吾も紅葉好き

湯舟にも紅葉浮かせるコロナ明け

泣きもせで捨てられし子ら月の下

仁王立ち腰を落として蠶螂は

ぎょうせん飴の売り声ひしやげ赤とんぼ

おけら鳴く錆びた鋸弾く如く

目があれば手足もあるや台風裡

大海を掻き混ぜ暴る台風禍

柳澤京子

柳澤京子

柳澤京子

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子